

# ペレットエサでの 両ダンゴの宙釣り

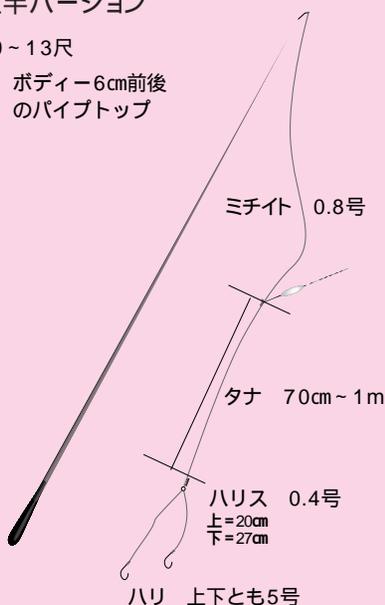
## 最近の傾向

ペレット系のエサを使った両ダンゴの宙釣りが、俗に言う「ペレ宙」と呼ばれるものになる。当初は一部の管理釣り場で愛好家が密かに試していた釣り方で、大型のへら鮒がおもしろいように釣れることで一躍脚光を浴びた。その後、多くの釣り人がやるようになると、その効果も次第に薄れてきたが、まだまだ釣り

場によっては効果抜群である。そして、長竿による大型狙いから、短竿による数釣りまで、この釣りは進化し続けている。  
**長竿バージョン**  
 16〜18尺の長竿で、深さ15〜2mくらいのタナを釣る。ボディー20cmくらいの大きなウキを使い、エサも大きく、タツチはカタボソが基本で、ウキの下に大量のエサを打ち、大型ペラを集めて釣っていく方法。これは大型ペラが多い釣り場では今なお健在。そし

### 短竿バージョン

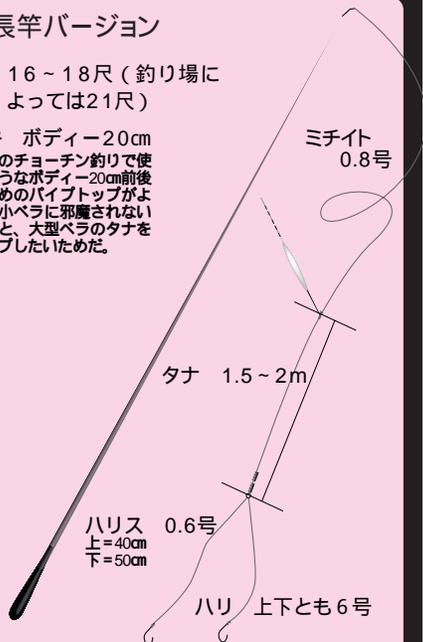
竿 9〜13尺  
 ウキ ボディー6cm前後のパイブトツブ



### 長竿バージョン

竿 16〜18尺 (釣り場によっては21尺)

ウキ ボディー20cm  
 長竿のチョーチン釣りで使うようなボディー20cm前後の太めのパイブトツブがよい。小ペラに邪魔されないためと、大型ペラのタナをキープしたいためだ。



# パターン 1

推薦釣法 = 長竿を使った大型狙い  
 (大型が釣れているとの情報があり、快晴で混雑しているとき)

## 宙ペレ100cc + 水200cc + もじり200cc + 軽麩200cc + 白べら400cc



て、混雑にも強い。釣り方のキモは、大きく前触れを出してガチッと決めるアタリが出るまで、エサを打ちぬくことが肝心で、しかも、アタリが出だしてからは、小さなアタリには手を出さない！ ことも大切だ。

### 短竿パターン

9〜13尺くらいのサオを使うので、イメージは、「メーター両タンゴ」の釣り。タナを70m〜1mに取り、ウキはポディー5〜7mくらいを使い、ハリスは20〜30mで、やや長めだ。パチンコ玉大の大きさのエサをこまめに打つが、最近では普通の両タンゴよりも、この釣り方が多くの管理釣り場で高釣果を上げている。

また、沖めの大型ペラは、この7〜8年で釣りきられてしまったように思えるし、短竿でも小ペラばかりでなく、大型が混じってしまうというまことに結構な傾向があり、

ペレットの威力絶大ということだろ。

釣り方のキモは、長竿パターンと違い、小さいアタリもドンドン取っていく、待ち釣りにならないようにすることが肝心だ。エサに重さがあり、タナも浅いので、ウワスリや寄り過ぎなどはあまり気にしなくてよい。



## エサ使いの「ツリ」

まず、「宙ペレ」に水を加えてよくかきまぜ、約5分くらい放置。ややペレットの粒がふやけてきたところで、「もじり」200ccを加えて20回ほどかき混ぜる。

次に「軽麸」を入れ、20回ほどかき回す。このとき、手は熊手状に開いてかき回す。さらに「白べら」200ccを入れ20回ほどかき混ぜ、さらに「白べら」200ccを加えて50回ほどかき回す。これで基エサのできあがりだ。これをしていねいに直径15mmくらいの大きさにハリ付けして打っていく。5目盛ナジミを基本とする。アタリが出るまでどんどん

エサを打っていく。始めのカラツンは、寄りがまだ足りないからと思い我慢してカラツンアタリでも取っていく。20

〜30回ほどカラツンが続いたら（カラツンが出るといふことは魚の寄りがマックス状態ではないということなので、エサのタツチを合わせていかないと釣れない）、基エサに手水で3回ほど水をふりかけ、5回くらいポウルにこすり付けるように練る。ただし、エサの大きさは変えないで打ち、まだカラツンが続くならこれを繰り返していく。

魚が寄ってきてウキが立ちにくくなったら、小さいへら鮒が寄ってきた証拠。エサを

重く、硬くして食いアタリを出そう。

基エサに「宙ペレ」を50ccふりかけ、20回ほどかき回し、丁寧にエサを付ける（丸くきちんと）。これでエサが持たないようなら、さらに「宙ペレ」50ccを加え、20回ほどかき回す。さらに持たないときは、エサポウルにこすりつけるように10回ほど練りこむ。さらにまたと、ズバツと入る大型べらの食いアタリが出るまで繰り返す。

ここで注意！ 寄り過ぎたからといって絶対に小エサにはしないこと。大型をそろえたいなら、「デカペレ」をバンバン打つべし。

## オモリ量

### 板オモリ

実寸大

8cm

10cm

オモリの量  
ウキの浮力は、0.25mm厚の板オモリで、1.7cm x 8 ~ 10cmが目安。これを2点または3点付けて使う。

## 長竿バージョン

## エサの大きさ



エサ  
実寸大

エサのサイズ  
直径15 ~ 20mmくらいの大きさを、ていねいにハリ付けして打っていく。



## パターン 2

推薦釣法 = 短竿で攻める場合

ペレ道200cc +  
白べら600cc +  
水200cc



+



+



### 短竿バージョン

#### エサの 大きさ

エサのサイズ  
直径11mmくらい  
の大きさにしてい  
ねいにハリ付け  
して打っていく。

#### エサ 実寸大



#### 板オモリ 実寸大

オモリの量  
ウキの浮力の目安  
は、0.25mm厚の板  
オモリで1.7cm x 1  
~ 2cm。

指を熊手状にしてかき回した後、20回ほどエサボウルにこすりつけるように練りこむ。弱いパチンコ玉大に付ける。弱いサワリだけのときは、エサが重く、決めアタリ(スバツ)と入る食いアタリ)を出さないと考えられるので、50ccの水を加え、「白べら」200cc加えて、20回ほどかき回す。これを3回くらい繰り返し返すと良い状態が見えてくる。

どちらのパターンのエサにしても、3目盛なじみが基本になり、あまりエサ打ち回転の遅い釣りは、この釣りに合わない。したがって、どちらのパターンがよいのか、早め  
にその日の傾向をつかむことが大切だ。

### 短竿バージョン

#### エサ使いのツツ

5cmずつ短くする。ウフズリがきついうのなら、「ペレ道」を加えて練りこむ。

この短竿のペレットエサの釣りで、よく決まるパターンがふたつほどある。ひとつは、「ペレットの量が少なく練り込んだやわらかいエサ」。もうひとつは、「ペレットが多めで、硬めの小エサ」だ。

# ペレットエサでの両タンゴの宙釣り こんな時どおする？



**Q1** **長竿バージョン**  
ウキが沈没して  
しまうけど...

**A1**  
まず考えられるのは、ウキが小さくてエサの重さに耐えられずに沈没してしまうこと。したがって、さらに大きいウキに交換してみるとよいだろう。すでに持っているウキで最も大きなウキを使用していて、それ以上大きいウキがない場合、エサ落ち目盛の位置を下にして、なじみ幅を多く取れるように調整してみよう。また、魚が寄ってくればウキも沈まなくなるので、ウキが沈まなくなるまで手返しよくエサを打つように心がけよう。

**Q2** **長竿バージョン**  
当たりだした  
けれど、カラツン  
で乗らない

**A2**  
この釣りの場合、大型ベラが寄らないとカラツンになってしまうので、大型ベラが寄るまで、しばらくはかまわずエサを打つ。かなりカラツンが続いている場合、タナを少し(20~30cm)下げると下に大型ベラが寄っていることがある。また、大型ベラは寄っているのだけれど、ウキが大きいので、エサがタナで安定しすぎてカラツンが起きていることもあるので、ハリスを少しずつ伸ばしてみよう。



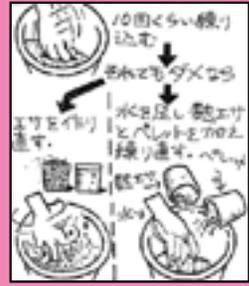
**Q3** **長竿バージョン**  
エサが  
なじまないけど  
どうすればいい？

**A3**  
ネバリが足らず、エサがバラケ過ぎているので10回くらい練り込む。あるいは大型ベラが寄ってきて、エサが小さ過ぎてなじまないケースがあるので、エサ付けを丁寧に大きく付ける。また、小ベラが寄ってエサを突付かれてしまっていてなじまないケースもあるので、ハリスを少し短くしてみる。また、ペレットの量が少なくエサが軽るすぎてなじまなくなっている事もあるので、ペレットの量を多くして作り変える。この釣りの場合、あまりむずかしく考えることはしないで、これ以上やって釣れないときは、釣り方選択のミスとしてあきらめよう。

# Q1 短竿バージョン

最初はいいアタリで釣れていたが、次第に同じアタリでカラツンになってしまった

釣っているうちに寄りが増してきて、エサが落とされてしまっていることが考えられる。10回くらい練り込んでみよう。これでアタリが無くなるときは、エサの経時変化によるネバリが原因なので、エサを作り替えるか、水を足して麸エサとペレットを加えて練り直してみる。



# Q2 短竿バージョン

ウキがなじんで上がるまで弱いサワリだけで食いアタリが出ない

エサが重過ぎることが考えられるので、ペレットを少なくして作り変えるか、水を入れて「白べら」などで調整してみる。またネバリが出てしまっている場合があるので、水を加えて、作ったときの比率でペレットと麸エサを加え少し硬めに仕上げよう。



# Q3 短竿バージョン

なじんだ直後にいいアタリ!でもカラツン...

まず、エサが大きすぎる事が考えられるので、エサを小さくして様子を見よう。エサを小さくしてもカラツンになるようなら、エサの大きさは合っていたが、タッチが硬すぎる事が考えられるので、手水をつけてやわらかくして打ってみよう。このエサでちゃんとなじみが出ないようなら、エサが持っていないので、少し大きくつけてみよう。

エサのタッチを変えると決めアタリがなくなる場合は、エサは元のタッチのまま、ハリスを少しづつ伸ばしていくとよい。

# Q4 短竿バージョン

落ち込みのアタリでカラツンになりなじむとアタリが出ない

エサの大きさが小さくて、へら鮎にあおられてしまっているのが原因のひとつ。大きくつけて様子を見たい。次に同じ理由でエサの重さが軽いのかも知れないので、ペレットを多めに入れてエサを作り変えてみよう。



# Q5 短竿バージョン

ボツにしてもカラツンやわらかくしてもカラツン

この状態だと、タナが少し違うことが考えられる。まず、少しタナを深くしてアタリを見てみる。深くしていったらだんだんアタリが少なくなるようなら、今度は浅くして試してみる。そのタナの間に食いアタリが出るタナが見つかる可能性がある。また、ハリスを少し長くしてみるのもよいし、ウキを少し小さくしても効果がある。